〈右上から〉ブックマーク(アヒル)¥22,050　手帳カバー"スメニエ"¥142,800　レフィル"スメニエ"¥23,100　手帳カバー"ヴィジョン"¥60,900　チェーン付き手帳用ボールペン¥56,700(すべてエルメス／エルメスジャポン)　iPhone 3G オープン価格(ソフトバンク)　Photos:〈上から〉Julien Hekimian／ゲッティ イメージズ、ロイター／アフロ、Venturelli／ゲッティ イメージズ

アナ・ウィンターの「踏み外し」は、
新時代における贅沢の新基準への
革命的な一歩かもしれない

中野香織の Luxury Quest 贅沢の本質

[ラグジュアリー・クエスト]

Photos : HIROSHI TAKASE
Text : KAORI NAKANO

vol.10

Revolution

モード界の女帝が仕掛けた“ラグジュアリーの革命”

確信的に行われた掟破りがもたらすモード界への核爆級インパクト

常に非の打ちどころない装いで人前に現れる大物に、米『ヴォーグ』誌編集長として長年君臨するアナ・ウィンターがいる。『プラダを着た悪魔』のモデルとしても知られるこのタイクーンの、ある「踏み外し(faux pas)」が、ファッション界にさざ波を起こしている。

6月22日、ミラノコレクションのフェラガモのショーで、ウィンターはキャロリーナ・ヘレラの花柄シフトドレスを着てフロントロウに座った。5日後、ウィンブルドンにおいてロジャー・フェデラーの試合を見るためにロイヤルボックスに現れた編集長は、同じヘレラのドレス姿であった。さらに続くパリコレで、シャネルのショーを見るためにフロントロウに現れたときにもまったく同じドレスを着ていた。

同じ服を着て人前に現れることが暗黙のタブーとなっていることは、モード界の女帝が誰よりも知っているはずである。とりわけ注目度の高い場で10日ばかりの間に3度も目立つ同じ装いで現れたことは、明らかに確信的に行われた掟破りと解釈していい。「ヌークリア・ウィンター(核の冬)」とも異名をとる彼女は、どうやら、ヘレラのドレスをそれこそ核爆級のインパクトをもって着たことで、お洒落であることの価値、贅沢の基準を、大きく変えようとしているようにも見える。

折しも、世界的な経済不況が押し寄せているばかりか、地球環境問題や人道主義に対する自覚と貢献を促すムードがファッション界にも高まっている。その流れを受けて、お金をかけず無駄も出さずスタイリッシュに装う「リセッショニスタ(＝リセッション＋ファッショニスタ)」なる社交人士が話題になり始めた。服や小物を交換するスワップパーティの記事がパーティ欄に登場しているし、ワンピースとしてもトップスとしても使える、一着で2度美味しいチュニックを「不況シック」と讃える媒体までお目見えする。「使い回す」ことはけっしてしみったれたことではなく、新時代における贅沢の新基準なのだ、と人々は価値を転換しようとしているように感じる。

贅沢の基準が書き換えられるとき、ラグジュアリー革命も始まる

思えば、ラグジュアリーの基準は、時代に応じて書き換えられてきた。フランス革命後、貴族階級の絢爛豪華が立ちいかなくなった時代に、ジョージ・Bブランメルが現れ、徹底した抑制と引き算による服装美学を打ち立てた。また、ゴージャスな名物茶器をコレクションしたのち本能寺でそれらをすべて焼き尽くした信長のあとを継ぎ、なお金ぴかを好んだ秀吉の時代に、千利休が登場し、極限まで無駄を省いてぎりぎりの緊張感を生み出す「わび」の美学を大成させる。

アナ・ウィンターの「踏み外し」は、ブランメルや利休の系譜に連なる、革命的な一歩なのかもしれない。贅沢革命の始まりである。

なかの・かおり●エッセイスト・服飾史家。1962年生まれ。東京大学文学部および教養学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。イギリスのケンブリッジ大学客員研究員などを経て文筆業に。連載記事は日本経済新聞、朝日新聞ほか多数。近著は『着るものがない!』『モードの方程式』(共に新潮社刊)など。2008年4月より明治大学特任教授に就任